



キルケゴールのキリスト論

同時代のヘーゲル主義者との関係で

鹿住輝之著

かすみ・てるゆき氏は立教大学兼任講師

デンマーク近代化の中でキリスト論を読み直す

従来、キルケゴールの体系批判はヘーゲル批判と結びつけられてきたが、実はハイペアやマーテンセンといった同時代のヘーゲル主義者に向けられていた。彼らはデンマーク社会が直面した自由主義的要求に各様に応答したが、キルケゴールは両者と異なっていた。その相違の核心をキリスト論に見出し、その理路を解明した俊英の力作。

関連

キリスト教の修練

キルケゴール著／井上良雄訳

◆四六判・360頁・定価3850円

◆A5判・310頁・定価4950円

旧約聖書 預言書

要約と概説

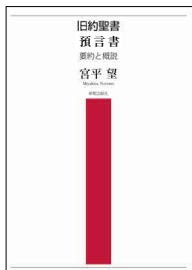
全4冊完結!

宮平望著

みやひら・のぞむ氏は西南学院大学教授

旧約聖書の諸文書を、すべての章ごとに、ヘブライ語原典に基づいて要約し、新約の視点からメッセージを解説する。創見に満ちた解釈を随所に盛り込み、旧約聖書の通読と学びが楽しくなる好著。

◆A5判・305頁・定価2530円



既刊

1

旧約聖書

律法書

要約と概説

◆273頁・定価1980円

2

旧約聖書

歴史書

要約と概説

◆368頁・定価2090円

3

旧約聖書

文学書

要約と概説

◆368頁・定価2090円

1月20日発売

1月25日発売

● 10月刊行

不安という相棒

四つのタイプとどう向き合えばよいか

フリッツ・リーマン著／赤坂桃子訳 ◆四六判・定価 2970 円

不安は私たちの人生から除き去ることはできない。精神分析的視点から不安を四つのタイプに分類し、不安に対処し、良い人生を生きるために、より良い対処法を豊富な例証と共に記述。戦後ドイツのベストセラー。



● 10月刊行

イザヤ書註解 I

1-10 章

ジャン・カルヴァン著／堀江知己訳 ◆A 5判・定価 6820 円

イザヤ書註解は 1551 年に出版された、カルヴァンにとって初めての旧約註解である。精密かつ情熱的な記述から、改革者がヘブライ語の深い知識に基づいて、いかに真剣に預言書に取り組んだかが如実に伝わってくる。全 5 巻。



● 10月刊行

牧会書簡

現代新約注解全書

辻 学著

◆ A 5判・定価 9900 円

牧会書簡と総称される「第一テモテ」「第二テモテ」「テトス」の 3 書簡は、パウロの名を借りたいわゆる偽名書簡である。この謎に満ちた書簡群を徹底的に読み解いた、世界最高水準の記念碑的注解書。邦語で類書に乏しい貴重な労作。



● 9月刊行

内村鑑三 闘いの軌跡

関口安義著

◆ A 5判・定価 7975 円

近代日本の生んだ最大の思想家内村鑑三の闘いの生涯を描く。克明な文献調査と足を使った事実調査に基づいてその生涯をたどり、新たな光を当てる。なお著者は本書の校正中に急逝したため遺作となった。



クリス・グリノフ著／薄井良子訳

クイア神学入門

〔仮題〕

レスビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー等々、ジェンダーやセクシエアリティの点で非規範的であることを表す「クイア」。それをめぐる多様な神学的冒険を平易に解説した画期的入門書。 四六判・予価2900円

松田央著

教会論と終末論

〔仮題〕

福音書が記すイエスの伝道活動を総括し、イエスが形成した弟子集団と教会の起源を検討。またヨハネ黙示録を通して終末論の本質を説明。福音と教会論と終末論を一体のものとして理解する。 四六判・予価2400円

マシュー・ホケノス著／穂田信子訳

マルティン・ニーメラー ヒトラーに逆らった牧師

〔仮題〕

アメリカ人教会史家が冷静な筆致で著した最新の評伝。第一次大戦ではUボートの艦長として戦い、牧師に転身した後もなおナチヨナリストで、当初はナチに共鳴したが、やがて批判に転じ、戦時下は強制収容所に囚われ戦後はエキメニカルな場で活躍した激動の生涯。 四六判・予価3500円

● 12月に出た雑誌、最近の重版、また近々の重版予定など

■ オンデマンド化予定
井上良雄著

神の国の証人ブルームハルト父子

四六判・予価6050円

ジョン・ドミニク・クロツサン著／太田修司訳

イエス あるユダヤ人貧農の革命的生涯

四六判・予価4950円

リチャード・ボウカム著／浅野淳博訳

イエスとその目撃者たち

A5判・予価9900円

■ 重版出来

内田樹著

レヴィナスの時間論

2刷

四六判・定価2860円

袴田巖著／袴田巖さんを救う会編

主よ、いつまでですか

6刷

無実の死刑囚・袴田巖獄中書簡 四六判・定価1676円

トム・ハーバー作、中村吉基訳、望月麻生絵

いのちの水

3刷

B6判・定価1650円

福音と世界

◆ 定価660円

1月号 原子力と再生可能エネルギー

寄稿者：牛山泉、津田敏秀、近藤恵、木村護郎クリストフ、片岡輝美、福嶋揚／連載 今高義也、後藤里菜、飯田華子、金歌昊、長尾優、サンダース&ヤーバー、山崎ランサム和彦、山口陽一、勝村弘也

●出版部から

小社は1944年10月5日に設立されましたので、今年で創業80年を迎えます。この間何度か出版不況の波に翻弄されながらも何とかこの年を迎えられたのは（もつとも、直近の大波はまだ取まっています）が、ひとえに読者の方々のご支援によるものです。現代社会の特徴は恐ろしいほど急速な変化にあります。速度を尊ぶ感覚は、たとえば時間の有効活用を表す「タイパ」（タイム・パフォーマンス）なる語が流行し、また実際、映画やドラマ（学生なら講義の動画）を送りで視聴するのが普通となっている点にも表れています。出版不況の原因は複合的ですが、最も根本にあるのは、時間の奪い合いの競争において書物にはとうてい勝ち目がないという事実にあります。読書には時間がかかります。名著は本当は「100分」では分らない。100分で解説しようとする試みも必要ですが、それは本来の読書行為の代替とはなりません。何日も（ときには何年も）かかる読書に価値を見出す読書人の存在が、小社を支えて下さっていると思います。そのことに改めて感謝を申し上げます。

*

なおお本欄では、今後、販売部からも折々の話題をお伝えしていきます。（小林）

●販売部から

宮平望先生の旧約聖書シリーズ（全4冊）は、キリスト教の見地に立つ旧約聖書の要約と概説です。第1冊目の『律法書』はモーセ五書を扱っています。私は長年聖書を愛読していますが、本意ながらレビ記を読むことを極力避けていました。律法書の中で最も難解に思うからです。例えば、レビ記1章から7章に記されている5種類のささげ物についてです。即ち、全焼の捧げ物、穀物の捧げ物、和解のいけにえ、罪のためのいけにえ、罪過のためのいけにえ。著者は、主なる神が民と結んだ契約は後にキリストによって刷新され、その契約は異邦人を含む全ての人々に開かれるという新約聖書の視点から「律法書」のメッセージを解説しています。この書籍を読む進めることによって聖なる神と民との交わりを継続する方法について教えていることや、新約聖書の特にヘブライ人への手紙と並行して読むことの重要性を見出すことができました。おかげでレビ記を再読する際、理解の助けになりました。もし、複雑多様な旧約聖書を読み進めるための手引き書を求めている方は是非、お読みになってください。（坂谷内）

福音と世界

2024年
2

A5判・80頁・定価660円・送料70円
年間予約購読料（送料共）8760円

特集・心の時代と宗教

ポジティブ心理学とウィリアム・ジェイムズ

林 研

苦悩する勇氣と苦悩する人に寄り添う勇氣

—— フランクフルの観点から —— 片岡輝美

神学的A—論序

アダルト・チルドレンの生きづらさから 濱崎雅孝

教会を問う 家山華子

プロテスタント教会における靈性の再評価

—— 靈的実践の現場からの提言 —— 上田直宏

宗教／スピリチュアリティを「心理学」する 松島公望

【好評連載】

◆ 八木重吉の聖書 8 …………… 今高義也

◆ 神と「女性的なるもの」を辿って 9 …… 後藤里菜

◆ グレート小林と3人の女 10 …………… 飯田華子

◆ 私は告白する、私の神を 11 …………… 長尾優

◆ 地域から考える在日朝鮮人史と教会史 11 …… 金 耿 昊

◆ 教会におけるイコノグラフィ 22 サンダース、ヤバー

◆ 「日本のキリスト教」を読む 25 …………… 山口陽一

◆ 新約釈義 ルカ福音書 26 …………… 山崎ランサム和彦

◆ 古代イスラエル文学史序説 3 …………… 勝村弘也